

2022年3月期 第2四半期

決算説明会

2021年11月29日

三櫻工業株式会社

(証券コード：6584 東証一部)

2022年3月期 中間決算の概要

取締役CFO 佐々木 宗俊

2022年3月期 第2四半期 連結損益状況



	2021年3月期 第2四半期 実績		2022年3月期 第2四半期 実績				2022年3月期 上期予想 (8/5公表)	
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	対前年同期		金額 (百万円)	達成率 (%)
					増減額 (百万円)	増減率 (%)		
売上高	46,948	100.0	58,119	100.0	+11,171	+ 23.8	58,000	100.2
営業利益	▲2,480	▲ 5.3	3,416	5.9	+5,896	-	3,500	97.6
経常利益	▲2,387	▲ 5.1	3,679	6.3	+6,066	-	3,700	99.4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲1,137	▲ 2.4	3,226	5.6	+4,363	-	1,900	169.8

● 2022年3月期 第2四半期 業績概要 (対前年同期比)

*金額単位:百万

- 売上高: 半導体供給問題、海上輸送網混乱、サプライチェーン問題に伴う影響を受けるも、前年同期の減収要因となった新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、+11,171増加。
- 営業利益: 売上回復に加え、前期に実施した構造改革や固定費削減の効果等により+5,896の増加。
- 経常利益: 営業利益の回復、為替差損益の改善により+6,066増加。
- 純利益: 上記要因による経常利益の増加により前年同期比で+4,363の増加。

● 為替レート

損益換算レート (単位:円)	2021年3月期 第2四半期 平均レート	2022年3月期 第2四半期 平均レート	変動率
ドル	108.3	107.7	▲1%
ユーロ	119.3	129.8	+9%
メキシコペソ	5.1	5.3	+5%
人民元	15.4	16.7	+8%
インドルピー	1.4	1.5	+5%
タイバーツ	3.4	3.5	+2%
ロシアルーブル	1.6	1.5	▲8%
ブラジルリアル	22.4	20.0	▲10%

2022年3月期 第2四半期 セグメント別実績

	売上高			営業利益		
	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	対前年同期 増減	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	対前年同期 増減
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)
日本	17,956	20,817	+2,861	▲1,265	1,057	+2,322
北南米	12,612	16,305	+3,692	▲954	188	+1,142
欧州	9,048	11,333	+2,285	▲232	526	+758
中国	8,422	9,890	+1,468	345	755	+410
アジア	6,219	9,485	+3,265	▲87	1,003	+1,090
連結調整	▲7,310	▲9,711	▲2,401	▲287	▲113	+174
合計	46,948	58,119	+11,171	▲2,480	3,416	+5,896

● 2022年3月期 第2四半期の地域別業績のトピックス (対前年同期比)

- 日本【増収・営業黒字】 半導体・樹脂材料などの供給問題を起因とする生産減の影響を受けるも、前年同期の新型コロナウイルス感染症の影響から回復し大幅増収。また、前期からの固定費抑制効果も継続したことで利益も大幅に改善。
- 北南米【増収・営業黒字】 半導体及び樹脂材料不足の影響があったものの、前年同期の新型コロナウイルス感染症の影響から回復し増収。また物流網の混乱による輸送費増加もあったが、人件費等の固定費削減を進めたことで営業赤字から営業黒字への転換を実現。
- 欧州【増収・営業黒字】 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う大幅減産の影響を受けた前期から回復し、半導体不足の売上影響も限定的であったことから増収。また材料市況の悪化の影響を受けるも増収効果及び固定費削減効果の継続も寄与し、黒字転換を達成。
- 中国【増収・増益】 他地域に比べ堅調に推移し、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響からいち早く回復した前年同期と比較しても増収。また購入品の絞り込み及び時間外の抑制によるコスト削減効果も寄与し、利益も大きく改善。
- アジア【増収・営業黒字】 インドにおける新型コロナウイルスの変異株の感染拡大に伴う減収影響はあったもののアジア他地域の回復により増収。また前期に引き続き人件費等の固定費削減活動の効果も寄与し、営業黒字への転換を実現。

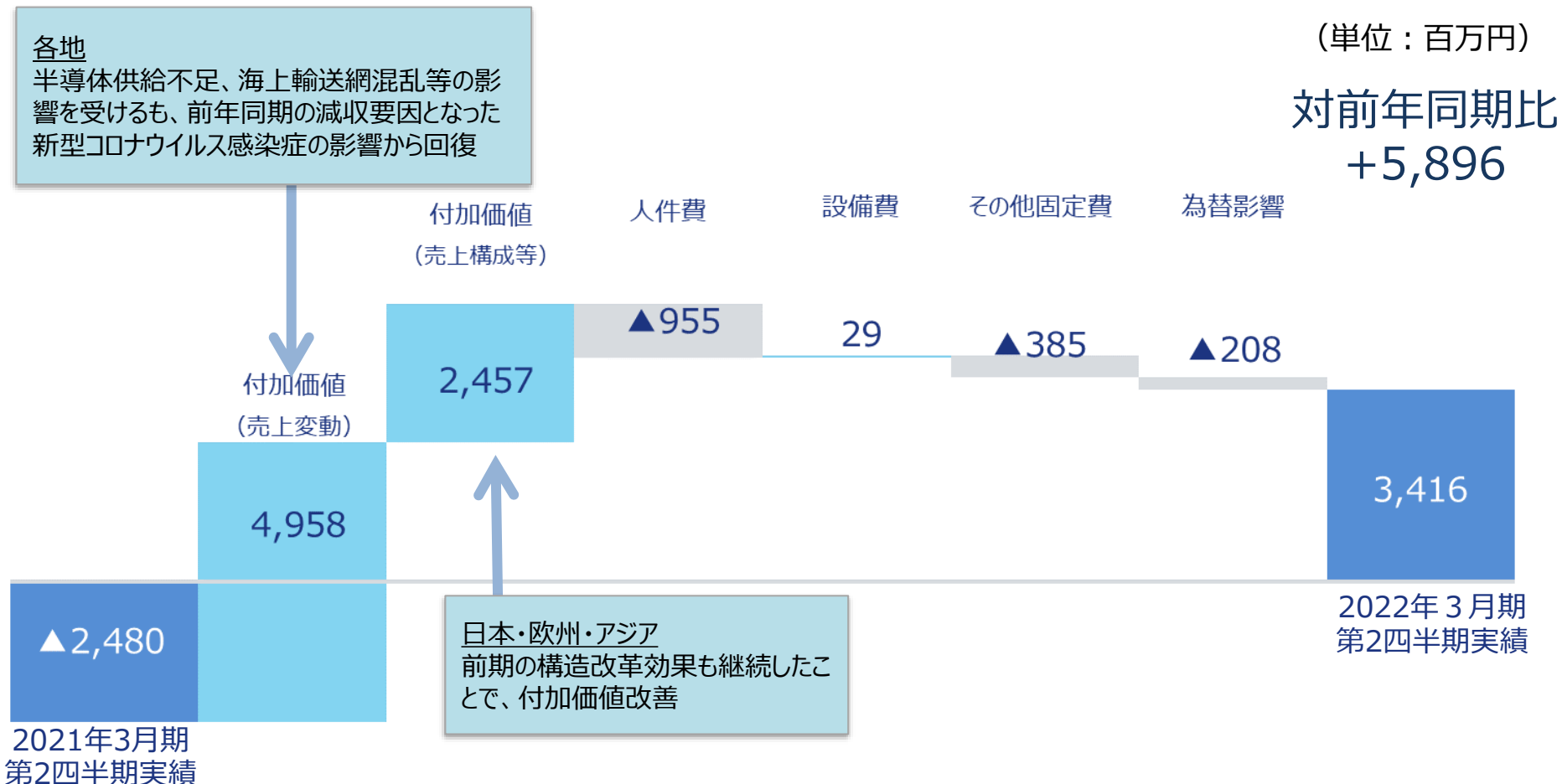
2022年3月期 第2四半期 営業外及び特別損益等



(増減額の符号は対利益符号)

連 結		2021年3月期 第2四半期 実績	2022年3月期 第2四半期 実績		主な増減要因 (金額は百万円)	
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	対前年同期		
				増減額 (百万円)		増減率 (%)
営業利益		▲2,480	3,416	+ 5,896	-	
営業外 損益	営業外収益	864	533	▲ 332	助成金収入減少 ▲479 為替差益の増加 +264	
	営業外費用	772	269	+ 502	為替差損の減少 +332 雑損失の減少 +105	
経常利益		▲2,387	3,679	+ 6,066	-	
特別利益		1,612	757	▲ 855	投資有価証券売却益 ▲1,195 受取保険金 ▲345 製品保証引当金戻入益 +699	
特別損失		45	17	+ 28		
税引前四半期純利益		▲820	4,419	+ 5,239	-	
法人税等		261	881	▲ 620		
非支配株主利益		55	312	▲ 256		
親会社株主に帰属する 四半期純利益		▲1,137	3,226	+ 4,363	-	

新型コロナウイルス感染症の影響による売上減少からの回復に加え、前期に実施した構造改革及び固定費削減効果が継続したことにより黒字転換を実現。



注：付加価値（売上変動）＝連結全体の売上増（為替補正後）×前期付加価値率（為替補正後）

2022年3月期 第2四半期 連結財務状況：対前期末



連 結		2021年3月期末		2022年3月期 第2四半期			
		実績 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	対前期末増減額 (百万円)	主な増減要因 (百万円)
資 産	流動資産	50,735	58.4	51,101	58.0	+ 366	総資産： +1,198 増加 ① 現預金 ▲1,942 ② 棚卸資産 +3,685 (生産変動や物流網混乱に備えた在庫確保) ③ 売掛金及び受取手形 ▲2,200 ④ 固定資産 +833
	固定資産	36,125	41.6	36,957	42.0	+ 833	
	資産合計	86,860	100.0	88,058	100.0	+ 1,198	
負 債	流動負債	33,929	39.1	32,591	37.0	▲ 1,339	負債総額： ▲3,222 減少 ⑤ 未払金 ▲592 ⑥ 製品保証引当金 ▲681 (取引先との費用負担交渉確定に伴う取崩) ⑦ 長期借入金 ▲2,270
	固定負債	17,452	20.1	15,569	17.7	▲ 1,883	
	負債合計	51,381	59.2	48,160	54.7	▲ 3,222	
純資産合計		35,478	40.8	39,899	45.3	+ 4,420	純資産： +4,420 増加 ⑧ 利益剰余金 +2,789 ⑨ 為替換算調整勘定 +1,504 (ドルやユーロ等の主要通貨の円安影響)
負債純資産合計		86,860	100.0	88,058	100.0	+ 1,198	

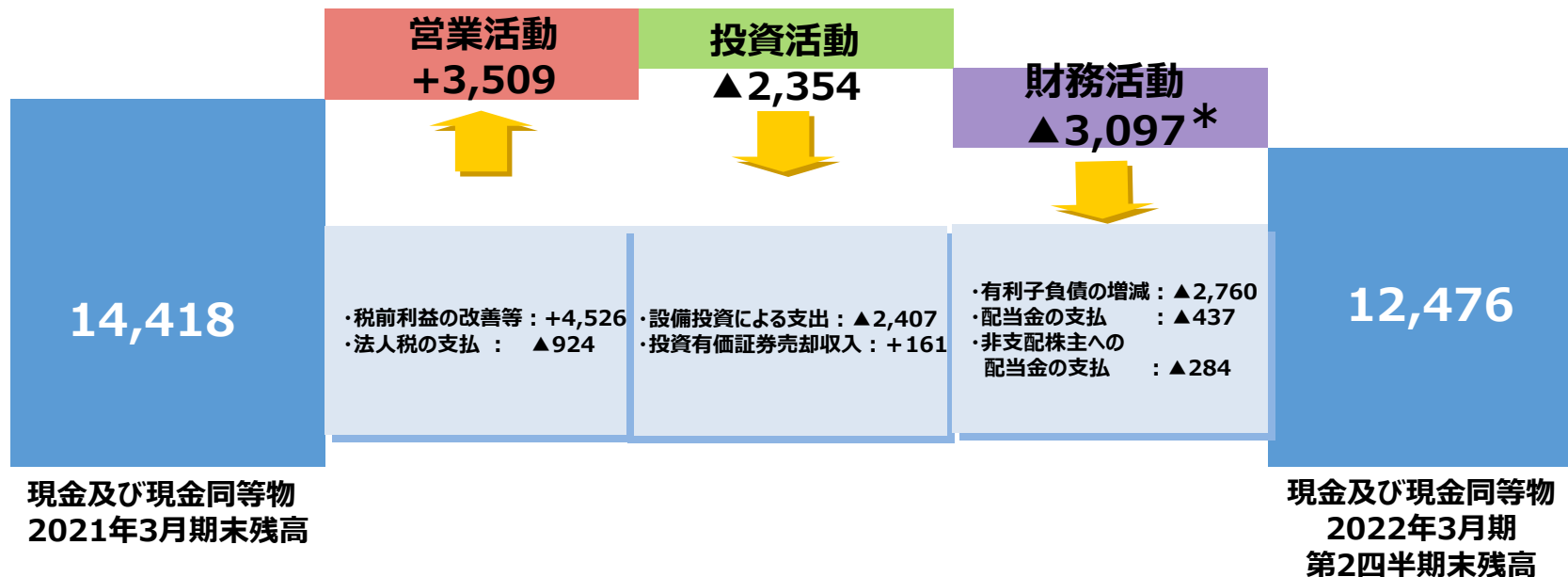
(注1) D/E レシオ…前期末 0.80 → 当第2四半期末 0.64

(注2) 自己資本比率…前期末 37.7 → 当第2四半期末 42.1

	前期末	当第2四期末
①有利子負債	26,016	23,672
②自己資本	32,716	37,098
①/②	0.80	0.64

● 2022年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



* 現金及び現金同等物に係る換算差額 (381百万円) を財務活動に含めております。

● 設備投資/減価償却の状況

(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	
		実績	対前年同期
設備投資額	1,518	2,407	+889
減価償却費	2,504	2,468	▲37

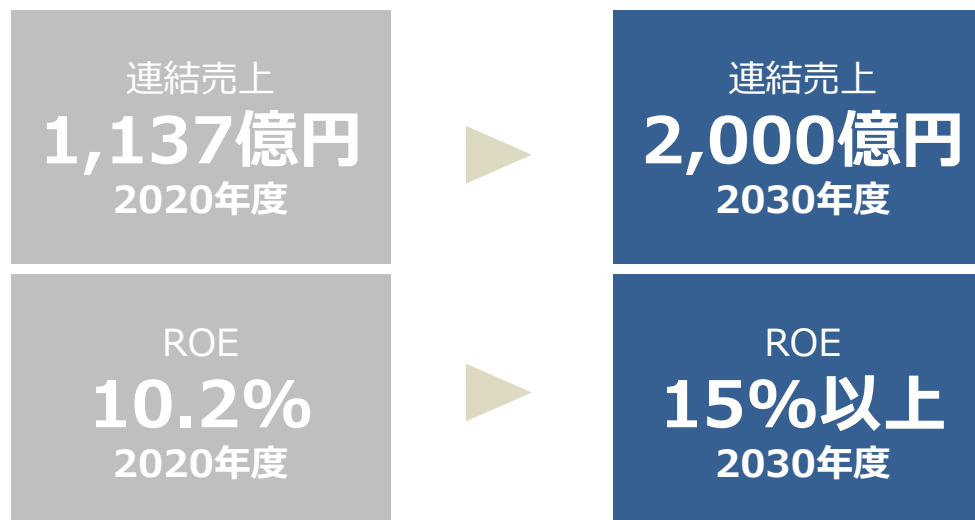
中期経営方針の 取り組み

取締役社長 竹田 玄哉

アフター・コロナの世界において、平均年率6%の成長を目指します

中期方針3本の柱	▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する	既存事業
	▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する	サーマル・ソリューション事業
	▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する 地域経済に貢献する新たな事業を創出する	次世代コア事業

定量目標



DXにより、既存事業の収益率と品質保証レベルを更に高度なものに

中期方針3本の柱

- ▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する
- ▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する
- ▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する
地域経済に貢献する新たな事業を創出する

既存事業

サーマル・ソリューション事業

次世代コア事業



既存事業売上

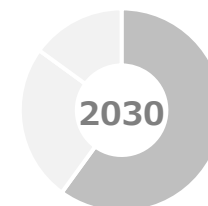
1,200億円

2030年度

既存事業営業利益率

10%以上

2030年度



I・II 既存事業

最適な熱輸送設計と品質保証力により、環境負荷を低減する

中期方針3本の柱

- ▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する
- ▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する
- ▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する
地域経済に貢献する新たな事業を創出する

既存事業

サーマル・ソリューション事業

次世代コア事業



サーマル・ソリューション事業売上

500億円

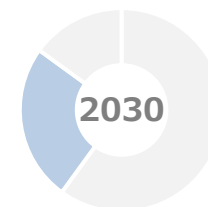
2030年度

EV, PHEV, HEV製品売上目標

250億円

HPC冷却製品売上目標

250億円



III サーマル・ソリューション事業

テクノロジーで社会の課題を解決する

中期方針3本の柱

▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する

既存事業

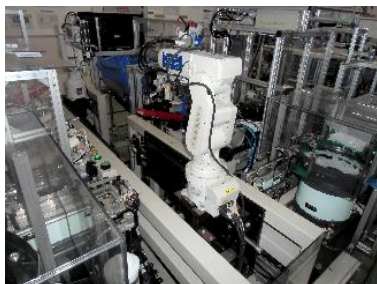
▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する

サーマル・ソリューション事業

▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する
▶ 地域経済に貢献する新たな事業を創出する

次世代コア事業

生産ソリューション事業



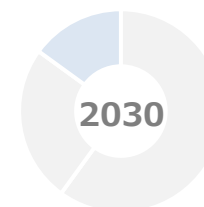
研究開発とCVC



次世代コア事業売上

300億円

2030年度



IV 次世代コア事業

ルマとしてではなく、三桜のブランドを確立するためにESGの強化にリソースを投下する

『環境にやさしい三桜』ブランドの確立
 自動車の軽量化、燃費向上への貢献
 生産プロセスにおけるCO2排出量削減
 サーマル・ソリューション事業への投資

Environment



地域・社会貢献活動
 事業所内保育施設の運営
 テレワーク制度の導入



TABLE FOR TWOプログラムの導入

Social



Governance



独立社外取締役が取締役会の過半数を占める体制へ
 ダイバーシティの推進
 非財務情報の開示の充実
 IR活動を通じたステークホルダーとの信頼関係の深化



このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。